

北上の大好きな場所や
郷土芸能の素晴らしさを
おすそ分けしたいんです。



高橋忠男 さん
たかはしただお
北上タクシードライバー
滑田鬼剣舞保存会会長

誰よりも街のことを知っているのは、地元のタクシードライバー。
観光名所、とっておきの穴場、美味しい料理、郷土芸能など、
ドライバーの視点から、北上の魅力をたっぷり紹介します。

北上タクシーに勤めてから24年が経ちますが、観光にいらっしゃる多くのお客様をご案内してきました。案内する際の目安として大まかな行程表はあるのですが、ガイドブックにはない楽しみ方も提案したくて、自分なりに観光地のことを勉強して案内するようにしています。

北上市内で人気なのは、北上の街並みや奥羽山脈が見渡せる国見山の「極楽寺(国見山廃寺跡)」や、国指定重要文化財の木造毘沙門天立像を祀った「立花毘沙門堂」。どちらも国見山一帯に栄えた古代の仏教文化の名残を感じられる名所です。ユニークな所では、全国

でも珍しい様々な鬼を展示した「鬼の館」も観光客に人気のスポットですね。

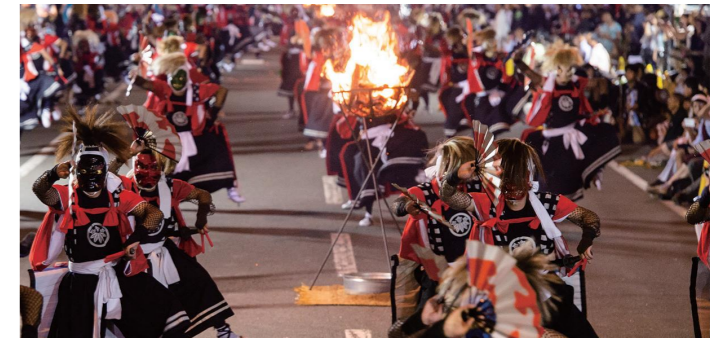
桜の時期は展勝地に行きたいというお客様が多いのですが、個人的な穴場である和賀川の桜並木にお連れすることもあります。3キロほど桜並木が続いて、なかなか見応えがありますよ。他にも、夏油温泉や瀬美温泉など、野趣あふれる露天風呂が多いのも魅力の一つ。食べ物では、山菜やきのこ、川魚といった自然のものや、前沢牛に匹敵するきたかみ牛もすごく美味しい。おすすめはいっぱいありますが、お客様の要望に合わせて、臨機応変にベストな場所へ案内していますね。

郷土芸能は北上の魅力であり誇り

北上には名所もいろいろありますが、一番の魅力は郷土芸能じゃないでしょうか。神楽、鹿踊、鬼剣舞など、北上には郷土芸能の団体が300以上もあって、とても盛ん。南部藩と伊達藩の境目であることから、両方の文化や郷土芸能を受け入れて、県内一と言われるほど発展したんだと思います。私自身、若い頃から鬼剣舞に携わっていることもあり、夏の北上・みちのく芸能まつりのことや平日でも郷土芸能のステージが見られる居酒屋の話をして、お勧めするようにしていますね。

北上のもう一つの魅力は、飲み屋が多いこと。私が運転手になりたての頃は、800軒以上も飲み屋があって、とても賑やかでした。今は減ってしまったけど、タクシー運転手はそれぞれ行きつけの店を持っていますので、お勧めの店を聞くと希望に合わせて案内してくれるはず。やっぱり地元の間が、美味しい店を知っていますからね。

タクシー運転手として心がけているのは、お客様の満足を最優先すること。単なるドライバーではなく、旅のコーディネーターとして北上のいいものをたくさん紹介して、「北上に来てよかった」と喜んでもらえるように努力しています。特に出張や観光で来られるお客様には、我々が最初に出会う北上の人間。良い印象とお客様の思い出を持って帰ってほしいですから。



タクシーでお客様を案内する時も、必ず伝えているのが鬼剣舞や神楽といった郷土芸能の素晴らしさ。滑田鬼剣舞保存会の会長を務める高橋さんは、40年以上も子ども達の指導に携わり、鬼剣舞の未来の担い手を育てています。

北上の イトコ! 若者を受け入れ 応援してくれるまち

私は奥州市出身で、結婚を機に移住したのですが、北上はヨソからきた若者を快く受け入れてくれるまち。積極的に地域に関わる気持ちがあれば、新たな挑戦をみんなでバックアップしてくれます。



あらゆる場所を案内し、北上を知り尽くしている高橋さん。北上巡りの理想的なコースを尋ねると、「夏油高原に行って、温泉に入れて、夜は居酒屋鬼剣舞で郷土芸能のステージを見せて、締めは冷麺だね」と話してくれました。

魅力案内人

MIRYOKU ANNAI BITO



当たり前の中の日常の中に
北上の魅力が
いっぱい詰まっ
ていると思います。

いわした よしこ
岩下佳子 さん
Yoppi食堂 店主 (左)

おばら れいな
小原侘奈 さん
居酒屋 Reppi 店主 (右)

都会暮らしを経て北上に戻ってきた、岩下さんと小原さん。
若い頃は嫌いだった田舎の風景や人間関係も、今は違う見方ができるように。
二人が気付いた北上の魅力は、ごく普通の日常の中にありました。

私たちは二人とも、一度北上を離れて戻ってきたUターン組。学生時代は、人間関係の狭さに息苦しさを感じたり、田舎の風景をつまらなく感じて、「早くこの街から出たい」と思っていました。都会での生活はそれなりに充実していて、楽しいことばかりでしたが、「いつかは北上に戻りたい」という思いは心の片隅にずっとあった気がします。

岩下は24歳の時に仙台から、小原は震災を機に25歳の時に東京からUターン。昨年から同じ店を時間帯で分けて、昼は「Yoppi(よっぴ)食堂」として岩下が担当し、夜は全国の日本酒と地元食材が楽しめ

る「Reppi(レッピー)」として小原が担当しています。私たちの店は営業スタイルが異なるため、来店されるお客様もそれぞれ。「Yoppi」はキッズスペースを設けているので、子連れのママたちやリーズナブルにランチを食べたい市内のサラリーマンが中心。「Reppi」は40代以上が多く、地元の美味しいものが食べられるとあって、市外や県外から訪れるお客様も結構います。こだわりの日本酒を揃えているので、ここをきっかけに日本酒好きになってくれたら嬉しいですね。



昼のランチを担当する「Yoppi」の岩下さんは、「お腹いっぱい食べてほしい」とリーズナブルにランチを提供。他にも、懐かしのナポリタンや、こだわりのカレーライスも人気メニューです。

一番大切なものを故郷で再発見

帰ってきて変わったのは、以前は気づかなかった北上の豊かさに気づけるようになったこと。例えば、食材にしても、北上はとても贅沢な場所。きたかみ牛といった高級食材や定番の野菜はもちろん、カラフルな人参や大根など、新しい種類の野菜にチャレンジする農家さんが増えていて、新鮮で豊富な食材が手に入る環境が整っています。

若い頃は煩わしかった人間関係も、今では一番大切なものになりました。困っていると手を貸してくれたり、応援してくれる人が本当に多くて、北上の人の優しさやご縁に随分助けられていますね。

それは子育ての面でも同じで、親や友達、知り合いがすぐ近くにいる、頼れる人がたくさんいるという

のが何より心強い。保育園や親子で遊べる場所も増えていて、子育てを手厚くバックアップしてくれる環境も、北上の魅力ではないでしょうか。

地元にいると当たり前過ぎて気づかないものですが、外から来る人の目を通して再認識する良さもいろいろあります。東京から友人が来ると、雪が降っているだけで感動するし、風景を見るだけで「山だ!田んぼだ!」と喜んでいる。温泉や風光明媚な場所もいいけれど、何気ない日常の風景の中に素敵なものっていっぱいあるのかもしれない。だから県外からのお客様にはこう話しています。「ただ街を歩いてみてください」って。

「北上の
イトコ!」

岩下さん:田舎過ぎず、都会過ぎず、街のサイズ感もちょうどいいし、人との距離もちょうどいい。私にとっては「安心して暮らせる街」です。
小原さん:この街があるから好きなこともできるし、どこに行っても帰ってこられるホームグラウンド。「私の心の安定剤」、それが北上です。

二人のお店があるのは、北上市の繁華街・青柳町。「Reppi」の小原さんは、地物にこだわった料理を出すため、直接農家を訪れて仕入れることも多いとか。「新たなことに挑戦する若い農家さんが増えて嬉しいです」と話します。

